

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム 令和 3 年度第 2 回役員会 議事録

- 日 時 令和 3 年 11 月 12 日（金）15：00～16：40
- 場 所 浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール
- 出 欠 出席役員 16 名（うち、代理出席 1 名）
- 結 果 取組報告と意見交換のみ（議決事項なし）

主な意見等

[会長あいさつ]

第一回役員会から今日が丸 6 か月目ということで、この半年間の取り組みの中間報告ということでこの会議を開催させていただいた。これまでの取り組み状況の情報共有と今後の方向性について意見交換を行わない。

コンソーシアムの目的の中に「地域とともにある学校づくり」と「魅力ある学びによる人づくり」そして「地域活性化の好循環に寄与する」ことを目的に掲げている。

この目標の達成に向け、現在具体的に取り組んでいる事業の一例として、学校と地域をつなぐ人財バンクの開設、そして、マッチングシート、あるいは、地元の高校への進学率アップを目指し、中学校へのヒアリング、中学生、保護者へのアンケート調査、それから、事業の見える化をしようと、情報発信事業にも取り組んでいる。

また、コンソーシアムの直接の事業ではないが石見ケーブルテレビの行政情報番組「浜っ子タイムズ」の枠を使い、県立高校 5 校の生徒が「わが学校の魅力を語る」という番組も予定されている。みなさまにもご視聴いただきたい。

事務局が先導する事業ばかりではなく、構成団体のみなさまが主体的に取り組んでいる事業もあると思う。今日はそうした協働事業について産学官、報告し合って、今後の事業方針につなげていければと考えている。

さらに、県立大学の赤坂ゼミのみなさんの事例発表をお伺いし、皆さんと忌憚のない意見交換ができれば、と考えている。

[令和 3 年度協働事業中間報告]

事務局より資料に基づき、活動報告を行った。

また、以下のとおり各学校における取組を校長から説明を受けた。

[各学校の取組]

(浜田学校 熊谷校長)

- ・浜田高校として、様々な取り組みができています。コンソーシアムは、学校と地域をつなぐ窓口という面で本当に私は機能していると思う。
- ・PBL 課題解決型学習で地域の方 30 人にお越しいただき、生徒が 30 組に分かれ

ていろいろな方のお話を3ローテで聞かせていただいた。夏にはその方々に生徒から個別に質問書を出し、お答えいただいた。それを秋には生徒が自分なりに感じたこと、興味を持った課題についてまとめ、発表会を実施した。

- ・発表会はトークフォークダンス形式で地域の方にも聞いていただき、アドバイスや丁寧に指導をいただいた。
- ・高校だけの取組で地域の方を30人集めることは難しかっただろう、と思っている。コンソーシアムがあったからこそ実現できたのではないか、と思っている。
- ・今年度から魅力化コーディネーターに週1回、学校に常駐してもらい、休憩時間等に生徒が相談に行くなかで、地域に繋いでいただいた。
- ・文科省の21世紀の中間調査では、社会体験活動と文化体験活動と自然体験活動を小さい頃からやっていた子は自己肯定感が高く、向学心が高いという結果がはっきり出ている。
- ・ニッチ（勉強と部活の隙間を使っての）活動や地域の話聞かせていただくことを体験活動として捉え、それによって、生徒は自分の夢を見つけ、向学心で更に将来こんなことを学びたいと思うようになる。
- ・生徒が生き生きとして積極的に活動している姿というのも見えていただきたい。これがさらに発展しすぎるといろいろ弊害もあるかもしれないが、やっぱり発展していただきたい、と思っている。
- ・浜田の全ての高校が、そういう一体感その中で子どもを育てていくという形に少しでも繋がっていければと思う。それが実現できつつあると感じている。

（浜田商業高校 木村校長）

- ・浜田商業高校では、3つのウィークを設けており、1学期に「進路ウィーク」を実施している。「進路ウィーク」は、県外の方から有名な講師を招いてビジネスに関わることを勉強する場としているが、残念ながら今年度はコロナ禍のため、実施できなかった。
- ・2学期は「ビジネスウィーク」として、浜商デパート(11月7日に開催)を実施している。地元企業に様々な協力をしていただき、仕入れから原価計算、売上の利益などを、授業の中で勉強した生徒が自らまとめて、交渉して行っている。
- ・お祭りではなく学習のビジネス教育の集大成として行う浜商デパート。これもコロナ禍のため、残念ながら地域の方をお迎えして実施できなかったが、ライブ中継とIT技術を活用したオンライン販売を実施した。
- ・ライブ中継は、会場を映して終わりということではなく、本校のIT商業研究部の生徒が自ら編集してインタビューを入れたり自作のCMを入れたりして工夫を凝らしていた。コロナ禍ゆえに生まれた本校の新しい動きだと思っている。

- ・3学期には、「学びのウィーク」を行う。これがコンソーシアムだよりも掲載されている課題研究の最終段階となる。1学期、2学期と発表を繰り返し、最終的に3学期のところでまとめて発表する。
- ・地元の企業に協力してもらい、それぞれの生徒がテーマを設けて実現したことを発表する。課題研究に対してコンソーシアムからたくさんの支援をいただいている。
- ・これもライブ配信 Web 等を使って県大生が高校生の発表を聞いて、県大生の意見をいただくという、島根県立大学との新たな繋がりも生まれてきた。
- ・コンソーシアムには、浜商の商業教育に関わるたくさんの支援をいただいている。
- ・浜商というのは、何をやって学校なのか、外にあまり見えない、という課題がある。普通教科などは中学校の先生や保護者の方も大体分かるが、やはり商業教育は何なのかというのが分かりにくいと思われる。
- ・このため今年度は、学校通信を定期的に発行するとともに、その内容も分かりやすく、伝わりやすいように心がけている。
- ・コンソーシアムができたことで、これまでやってきた商業のビジネス活動がさらに強化され、非常に動きやすくなった、ということを実感している。

(浜田水産高校 福井校長)

- ・コンソーシアムの目的の一つ目の「地域とともにある学校づくり」について、本校では、インターンシップを7月に5日間2年生全員で市内の20社に出かけ、地域の人と共に働くところを体験させていただいた。
- ・6月には、全学年を対象に「先輩と語る地元企業就職セミナー」を開催し、15社の地元の企業様にお声掛けし、本校OBの先輩を派遣してもらい彼らに語ってもらった。説明を聞いた生徒からも有給休暇や資格取得について質問があり、卒業生が丁寧に対応していた。
- ・続いて「特色を生かした学びによる人づくり」では、保育園・幼稚園対象の海洋教育を実施した。長浜幼稚園、ちどり第1第2保育所から園児十数名と体験航海、氷作成、手旗信号の体験などを実施した。
- ・また、長浜まちづくりセンター主催で馬島の探検を8月8日に実施し、海洋ゴミについて海洋少年団に説明した後、カッター部の生徒がロープワークを教えた。馬島から帰った後、大型タンカーを東京湾で舵を取るというシミュレーター体験も行ったところである。
- ・本校では、年末にかけて鮭の荒巻作りを作っている。今年度は、ノドグロ給食プロジェクトに参画し、4000匹余りのノドグロを一匹一匹丁寧に下処理したため、非常に実習時間が短くなったが、昨年度より多く製造する予定なので、皆さんにも是非、購入していただきたい。
- ・その他にも色々な実習製品を製造している。本来なら水高祭で市民の皆さんにも販売していたが、今年は残念ながらコロナ禍ということで外部の人を一

切入れずに水高祭を実施した。紺屋町のイベント、広島（しまねふるさとフェア）、日比谷のしまね館などに生徒が行って販売というのを考えていたが、残念ながら今年には実施できなかった。

- ・先日、日比谷のしまね館に行ってきた。来年度は是非、それに併せてロープワークでコースター作りというワークショップを開催し、食品販売だけでなく実際にお越しいただき体験してもらうことも計画しているところである
（岡田会長）

- ・魅力化コンソーシアムが立ち上がったばかりだが、きちんと機能している、あるいはコンソーシアムのお蔭で、様々な事業が動きやすくなったというお声を聞き、この活動が評価されていると受け止めたところである。引き続きのご協力をお願いしたい。

[令和4年度の事業方針]

事務局から、市内高等学校を取り巻く情勢や課題について説明し、令和4年度から7年度までの間、取組む事業方針を提起した後、意見交換を行った。

[意見交換での意見]

（田村監事（浜田商工会議所））

- ・事務局から課題について説明があったが、どれも大事な課題だと思っている。これを解決することが浜田市の若者を増やし、産業を活性化していくことに繋がると思う。
- ・高校の定員の充足というところで、通学が難しい生徒に対する支援は必要だと思っている。現状の公共交通では十分ではないし、また経済的な課題もあるのかもしれない。
- ・事務局が提起した事業方針について理解する。やはり、生徒の意識も大事だが、保護者、家庭の意識もやはり大事だと思う。地元の企業、将来的には浜田市に帰っていただいて地元の企業に就職してもらおうというのが大きな目標だと思っている。
- ・商工会議所では、島根県立大学と包括的連携協定を締結することにした。内容は、卒業生を地元の企業へ就職してもらおうということ。特に、県西部は慢性的な人手不足で、それを増やしていくためには、まずは県大に入学してもらい、卒業後は地元の企業へ、それが一番地元就職を高めていくことに繋がると考えており、県大と連携し進めていく。
- ・就職だけではなく、いろいろな地域課題についても県大としっかり連携して取組みたい。

（岡田会長）

- ・一回目の役員会の時に田村さんからご指摘いただいた点を踏まえて、事務局の方でも中学校へのヒアリングや、アンケート調査の中にそういった項目を

盛り込んで、今分析を行っている。そのあたりの分析について、事務局から説明ください。

(事務局)

- ・アンケートでは、通学の部分について意識調査を行った。地域のよってはそうした要望もある。中学生と保護者で異なるところはあるが、高校を選ぶ理由で「近いから」という記載が多く、自宅から通えるということは、高校を選択するうえで、大きな要素になっている。
- ・一方、スクールバスの運用に関しては、中学生全体では35%、保護者では58%が必要だと感じている。校区で見ると金城・旭の校区はその傾向が強い。

(岡田会長)

- ・今回のアンケート調査においても、交通手段だけではなく寮の必要性についても聞いている。今後、アンケート結果についても委員の皆さんに共有する。
- ・2点目に、若者が増えるようないろいろな取り組みということで県立大学と商工会議所の包括協定ということについて説明があった。この点について、県立大学では何か補足があればお願いしたい。

(赤坂委員 (島根県立大学))

- ・県立大学に進学すればそのまま県内に留まるかどうかというのは、結構微妙な問題だが、私たちも何もしないと、都会の企業にどんどん学生が流れてしまっている。
- ・何とか県内就職を増やしていきたいという状況の中で、島根電工だとかTSKグループなど、県内に進学を希望する学生に対して、今年から奨学金を出していただき、学生から好評を得ている。
- ・問題なのは、県内企業の魅力が大学の学生に伝わっていないということで、そういった情報もどんどん学生に周知するような形で日々努力している。
- ・通学の交通手段について、私は、県内の5つのコンソーシアムに参加している。中山間地域の高校とかも結構深刻な問題として捉えられている。実際に、バスの通学定期を補助するだとか、さらにバスを出さないといけないかなど、そんな話も出ているがなかなかうまくいっていない。
- ・競合する私立の高校がかなり自助努力で、ドア to ドア的な形の送迎、若しくは進学に力を入れている、サークルが強いなど魅力に特化したところでもかなり競合相手が厳しいという状況の中で、同じ手を使ってもなかなか難しいと思う。
- ・通学に関して、実際には親の車で送迎してもらっている生徒が多いと聞いている。会社員が通勤手当の支給を受けるように「通学手当」的なものを、バスの定期だとかそういう細かいことを言わずに、何キロ圏内ならいくらという形で提供してはどうか。地域全体で生徒を確保していくそういう取組の一つとして、通学手当というのは面白いと思う。

(佐藤委員 (浜田市中学校長会))

- ・正直、コンソーシアムは、これからだろうな、と感じている。中学校と高校、例えば、高校を上とすると、中学校の認識は、上の辺で何かイベント的なことをやっているな、というくらいのところではないと思う。教職員でもそうなので、中学生は、まだまだ昔の高校選びの考え方でやっているような気がする。
- ・コンソーシアムの事業でいろいろ挙げているが、その中でも、うまく一致させていく必要があるのは「キャリアパスポート」だと思う。
- ・「キャリアパスポート」についての理解や、それに関係する取組が、コンソーシアムの事業にあれば、中学校と高校とのつながりがより強くなるのではないかと、説明を聞きながら感じた。

(岡田会長)

- ・中学校のキャリアパスポートの話題があったが、このキャリアパスポートについて情報提供していただき、共有する必要があるのではないかと考えている。次回にでもその説明をしていただければ嬉しい。

(栗栖委員 (浜田っ子共育運営委員会))

- ・共育の理念は子どもを地域ぐるみで育むとともに大人も地域も高まり合うところを大事にしている。高校生に関わる大人たちがそのことを通して、より地域でエンパワーメントされたり、あるいは高校生との関わりをより良くするために学びたいという機運が、生涯学習の観点からいくととても大事だと思う。
- ・大人が子どもにどう関わっているのかということの振り返りをきちんと行い、本当に高校生の学びや意図に沿った伴走や支援が行えているかということをおさえておく必要がある。
- ・高校生も勉強で忙しい中、更に大学の進学のために地域活動も…という流れの中で忙しくしている。高校生に対して、大人が「しんどいならちょっと休もうか」って言えるような寄り添いが出来るかが大事で、大人側の研修、あるいはそういうリフレクション、大人自身の振り返りの仕組みが必要だと思う。
- ・高校生が、浜田市にとっては大切な住民という意識が重要だと思う。私は子どもの権利条約のことをしている。子どもの社会参画や意見表明がきちんと保証される浜田市になるには、いろんなコミュニティ、そしてそれに紐付いた補助金も必要だが、子どもが自ら意見表明をして参画して何かをしたいという時に使える資金も必要だと思う。
- ・例えば、子どもの権利条例を策定するなかで、子ども基金みたいなものを地域住民あるいは企業から集めて創設し、その基金は、100%子どもが自主的にやりたいことのために使い。大人が子どもの手で色々と成し遂げることを見守り伴走する仕組みというのを、この5年間ぐらいで構築していったらどう

か、と思っている。

(岡田会長)

- ・高校生あるいは地元の子どもたちを大切にするために、大人も変革が求められているし、子どもたちの活動を支援するための資金的なものも必要であり、そのベースとなる子どもの権利条例が必要ではないか、との指摘でした。このことについて、今後、役員の皆さんと一緒に考えていければ良いと思う。

[事例報告]

島根県立大学の赤坂ゼミのゼミ生から「浜田駅周辺に自習・交流スペースをプロジェクト」の説明を受けた。

[事例報告を受けての意見]

(佐々木委員 (浜田養護学校))

- ・とても素敵な提案だと思う。このスペースの目的として、一つは自習、一つは交流とあったが、交流にはボランティアもある。私の勤務する学校は、養護学校で児童・生徒が100名いる。そのうち6割が浜田市内の子ども達である。
- ・子ども達はなかなか地域と交わることが少なく、特に高等部の生徒は交流関係がすごく狭い。
- ・私はできるだけいろんな人と関わって、障がいについても地域の人に理解してもらいたい、いろいろな人に理解して欲しい、という思いがあり、障がいのある子どもたちも、是非、このスペースに入れて欲しい。
- ・報告にいわみ福祉会による物販の構想もあったが、それは卒業後のことになるため、在学中に障がいのある子ども達も関われるような場所になると素敵だと思った。誰にでも優しい浜田市になって欲しい。

(ゼミ生)

- ・広い交流スペースを確保することができたら、団体に貸出し、その場所で行われるイベントなども企画運営していこうと考えているので、今後の参考にさせていただきたい。

(虫谷委員 (浜田まちづくりセンター合同連絡会))

- ・本当に素晴らしい提案で感激している。まちづくりセンターの私たちも一緒にそうした姿が見られたらいい、と思った。
- ・私は、浜田駅に近い場所に位置する石見まちづくりセンターに勤務しているが、先日ある会議で、若い皆さんの学習の場として、まちづくりセンターが利用できるような事業を来年度できないか、という話になった。
- ・石見まちづくりセンターは、割と駅に近いところに位置するが、昭和60年頃にできた建物で古く、皆さんのそういう憩いの場また勉強の場そういう具合

にふさわしいかどうかは別として、交流の場に使っていただくように来年度は何か考えたい、と思っている。

- ・今年の夏も中学生や浜田高校の生徒さんたちが自習に利用されていた。
- ・センターの開館時間や管理のことでの制約など、いろいろ考えながら皆さんの説明を聞いていたところであり、個人的に考えていることを発言させていただいた。ご協力できることがあれば協力したいと思っている。

(ゼミ生)

- ・こういう声を地域の方々から提案いただけることは、すごくありがたいことだと感じている。
- ・交流自習スペースを作ると言っても、様々な課題がまだ山積みなので、早期実現ということは難しい。
- ・今のところ、龍泉寺の協力で場所を提供してもらっているが、まちづくりセンターさんとも協力し、まずはこれからできることを一歩ずつ進んでいきたい。

(田村監事 (浜田商工会議所))

- ・県大では、アイデアコンテスト等で商品開発など様々なことをされており、ビジネスについても学習し、実際に取組んでいると思うが、提案されたスペースを活用して商品を開発したり、実際に販売もできると思うが、そうした構想はあるのか。

(ゼミ生)

- ・提案でも書いているとおり、多目的な役割を果たすことができるスペースを作ろうと考えている、その場で例えばビジネスによる講演会であるとか、その他学生団体さんたちを招いたワークショップなどそういったことも行うことができるスペースになれば良いと思う。

(熊谷副会長 (浜田高校))

- ・大学生・高校生が対象ということになると、中学生はどうか、入ってもいいのか、そういう視点が入っているのかを聞きたい。また、さらに、小学生に対して、どのような関わりをしていくのか、このあたりについての意見を聞きたい。
- ・私見になるが、スペースを紹介するホームページを作成すると思うが、これを委託してプロがつくるのではなく、学生が作り上げていくような形でできると、多目的の交流が広がると思う。

(ゼミ生)

- ・小学生や中学生の関わり方については、初期の段階では大学生と高校生が中心となって利用する提言や設立の討論をしていきたい、と考えている。
- ・小学生や中学生の利用に関しては、そのスペースが完成、またはそのスペースが完成するまでの間、例えば龍泉寺さんの活動や、先程ご提案いただきましたまちづくりセンターを利用する際、様々なイベントを開催しようと考え

ているので、そういったところで小学生や中学生を巻き込んでいければ、と思っている。

- ・ホームページに関しては、他の大学とも連携したり、先程ご提案いただきましたように自分たちで少しずつ作っていく、そういったものもひとつのイベントとして行うことも面白いかなと、ご意見を聞きながら思った。

(岡田会長)

- ・なかなか斬新なアイデアで、県大生の若い人のアイデアのため、聞きたいことはたくさんあると思いますが、時間も限られているため、今日のところはこれまでにしたい。
- ・この提案はこれまでのゼミの活動の内容を報告していただくとともに、できたらその実現に向けてこのコンソーシアムの中でもいろいろ進めてもらえないか、という要望でもあったように思う。
- ・施設を作る、作らないというのはここではなかなか難しいと思うが、今意見が出たようにまちづくりセンターでもソフト的なものはできるとか、商工会議所さんがおっしゃられたようにビジネス発表の場だったり、いろいろな連携ができるなど、考えられる。
- ・出来ることから少しでも関わりを深めていくことも可能なので、そうしたことを中心に進めていくということであれば、そこまでハードルが高いことではないようにも感じている。
- ・一方でこのアイデアに近いものを高校生が一日議会で提案していただいております、市の担当課でも、この提案をどうするか、ということも検討しているようなので、そうした情報も共有しながら少し掘り下げていければ良いと思う。
- ・県大生の若い人のアイデアなので、やはり若い人の気持ちを実現させていくということも、大事なことだと思う。

[その他]

(熊谷副会長 (浜田高校))

- ・最後に宣伝をさせて欲しい。本日、資料として「ちょこっトーク」のチラシを配布している。内容は、フォークダンスのように一対一で、1分ずつ短い対話をし、交代していくもの。地域の方と高校1年生普通科160人、160対160で短い時間対話をする、そういうイベントを企画している。
- ・主催は浜田高校となっていますが、完全にHAMADA教育魅力化コンソーシアムとの共催事業だと思っている。当日、交通費等は出せないが、役員の皆さまの参加をお待ちしている。

[岡田会長まとめ]

- ・コンソーシアムの共催事業ということなので、是非、委員の皆さんも参加につ

いて検討していただきたい。では、以上をもって、第 2 回 HAMADA 教育魅力化
コンソーシアムの役員会を終了する。

以上